

12.5.12
935

社會主義講義錄發刊の辞

世紀末の混沌、民衆の破裂的絶望の叫喚、聲塵ゴツが發する革命に與
應した民衆は今や人格的にも思想的にも疲弊困憊の極みの、不安と焦燥と
の慄々に悩む。

時代は人間の懷疑的煩廢と否定的素戔とが錯綜して造る混沌たる交響樂
の上に浮ひあがつて居る。

この矛盾を墮落せる社會は、人間を機械化し生活は死灰の如き静寂に。

人は生活に倦み疲れる

在りの儘の人生。そこに何の感激があらう、何の驚異があらう。驚異な
き所に感激なく、感激なき所に生活は在り得ない。

故に我は驚異の世界を創造し、感激の世界を創造し、神の智慧を借

すに自然を創造しなければならぬ、~~飛躍を以て進んでいかなければならぬ。~~

飛躍を以て進化に代へなければならぬ。今日の前を明日を生活しなければ

ならぬ。平面的内に立體を發見しなければならぬ。耳を以て見、目を以て

聞かなければならぬ。凡ての覆へる物を去り。凡ての隔てる物を除き、勇

躍して直ちに其本質を捉へなければならぬ。

此意味に於て本大學は新しき世界に突入する一歩として、民衆の實地社

會主義講義錄を刊行する次第であります。

社會主義大學

提案母體の片貝塾五錢同時の上東米朝區令小路二回